～みんなで支える地域の笑顔～

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和8年8月26日 VOL.208

本人の声
×
杏林堂ドラッグストア
藤枝駅北店

～共創により認知症バリアフリーの推進!!～
安心して買い物を続けられるまちへ



令和8年7月28日、杏林堂ドラッグストア藤枝駅北店で、認知症の本人や家族、杏林堂薬局職員、支援関係者、市職員等が参加し、**「安心して買い物を続けられる環境づくり」**について考えました。

本人から日頃の買い物の様子について聞き、実際に店内を一緒に歩き、商品を探したり、セルフレジの体験をしました。本人の経験や声から、買い物をする上でのバリアを知り、「こうだったらいいな」「こんな工夫ができるかも」と、アイデアを出し合いました。





普段の買い物について

- 買うものはメモしているが、メモをどこに置いたか分からなくなることも。ヘルパーさんと一緒に買い物に行っている。店が自分のことを分かっていて気にかけてくれている。自分のことを知ってもらった方が安心。
- 認知症が進行しないように歩くことを心がけている。出かけた先で色々なお店に行く。買い物は目の保養になっている。
- 夫の認知機能が低下し、「何もさせないように」と全てを自分（妻）が担っていたが、映画「オレンジ・ランプ」を観て考え方が変わり、チャージしたカードを渡し、一人での買い物を勧めた。夫も「分からなければお店の人に聞けばいい」と買い物を続け、今ではコンビニにも一人で行くようになった。

店内を一緒に歩いて気づいたこと～買い物を続ける上で感じるバリア～

- 商品が多いと、どれを買ったらよいか迷ってしまい、選べない。いつも買っているものも分かりづらい。
- セルフレジが増えてきているが、クーポンやポイント等の表示が多く、戸惑う。何を聞かれているか、どこを選択すればよいか戸惑ってしまう。
- 聞きやすい雰囲気があると、安心して聞ける。忙しそうだと聞きづらい。
- 見上げる看板だけでなく、床に動線の案内があると分かりやすい。

2040年を見据えて ～ 誰もが社会の一員へ ～

	2025年	→ 2040年	
人口	139,107人	117,041人	減少
0～14歳	15,906人	10,706人	減少
65歳以上	44,287人	44,065人	高齢化率増加
うちMCI	6,820人	6,874人	MCI・認知症の人が
うち認知症	5,713人	6,566人	子どもの数を上回る。

自分の足で訪れて買い物してもらうことが一番。認知症バリアフリーについて、企業として社会課題として受け入れるとともに、地域のために変化していきたい。
今回のような取組にたくさんの本人に参加してもらいたい。



杏林堂薬局健康医療
ネットワーク推進部飯塚部長

認知症の人の暮らしは、買い物、移動、金融、住まい、教育、地域活動など、さまざまな分野とつながっています。

～認知症とともに生きることが身近になるこれからの社会～

認知症とともに生きる本人の経験や声を起点に、さまざまな分野の人たちと対話を重ね、それぞれが立場を活かしながら、認知症になってからも一人一人が社会の一員として暮らし続けられるまちを共に創っていくことが必要です。

藤枝市では、これからも暮らしに関わるさまざまな人や分野との共創を広げ、誰もが“安心して認知症とともに生きることができるまち”を目指していきます。

藤枝市 Fujieda City
健康福祉部 地域包括ケア推進課
TEL 054-643-3225　E-mail chiikicare@city.fujieda.lg.jp

バックNoの検索は